

日中韓3カ国が文化芸術を発信する国際イベントのシンボルとして、県が関連事業で使用するロゴマークを考案した。静岡文化芸術大デザイン学部3年。神戸市出身、21歳。

「ロゴマークの題材は。『日本の伝統的な飾り結びの総角(あげまき)結び』を結ぶ途中の形を基にしている。イベントを通じて3カ国の交流を結んでいこうという思いを込め、結ぶ途中の形を題材に選び、3カ国を表現する三つの色や、本県を象徴する富士山、ハートの形などを盛り込んだ。『結びつき』や『つながり』のイメージから、飾り結びのモチーフにたどりついた」

— 考案の経緯は。

「東アジア文化都市2023」のロゴマークを考案した

いりえ ななみ
入江 七海 さん (浜松市中区)



この人

「昨年の夏休みごろ、先生から学内コンペに参加しないかと声をかけられたのがきっかけ。最初の案を考えるのに行き詰まって苦しんだけれど、報われてうれしい。自分の作品で初めて入選したため、一歩成長できたという自信にもなった」

— 文化芸大を選んだ理由は。

「小さい頃から絵や工作などものづくりが好きで、将来は芸

術系の勉強がしたいと考えていた。高校は普通科に進んだが自分で画塾に通い、公立大の中から進学先を探した。地元に近い関西圏で行きたいと感じる大学が見つからなかった時に美術部の顧問に文化芸大を紹介され、キャンパスの雰囲気引かれて受験した」

— 今後の目標は。

「自分がアイデアを出して企画したもの形になって、課題解決につながるのがデザインの魅力。大学では知識や経験を広げようと、幅広い分野の授業を受けている。グラフィックが得意な自分自身の強みを生かしながら、デジタルなど新たな技術も学んでいきたい」

(政治部・杉崎素子)